



志高く  
心豊かに  
自らを鍛える生徒

# 入間野愛

狭山市立入間野中学校  
生徒数 477名  
TEL 04-2959-9311

令和6年度 10月号

## 他者を思いやる想像力と共感性を培う「活字文化」

～ R6 全国学力・学習状況調査（3年生）の結果より ～

【R6年度】			
3年生	国語 平均 正答率 (%)	数学 平均 正答率 (%)	英語 平均 正答率 (%)
入間野中	61	56	本年度、英語 はありませんで した
埼玉県（公立）	59	53	
全国（公立）	58.1	52.5	

4月中旬に実施された全国学力・学習状況調査の結果です。**3年生**が対象の調査で、現3年生が2年生だった昨年度から今年度当初にかけての取組状況がデータとして表されます。本校3年生は、国語、数学ともに全国や埼玉県の平均正答率を上回っています。

また、「生徒質問紙」（学習環境や生活面等についての調査）で、本校3年生の**肯定的回答**（「当てはまる」）の割合が、国や県よりも**特に高い項目**は次の通りです。

- |  |   |
|--|---|
| <input type="radio"/> 「自分には、よいところがある」            | <input type="radio"/> 「先生は、自分のよいところを認めてくれる」 |
| <input type="radio"/> 「人が困っているときは、進んで助けている」      | <input type="radio"/> 「いじめは、どんな理由があろうとよくない」 |
| <input type="radio"/> 「友達関係に満足している」              | <input type="radio"/> 「人の役に立つ人間になりたい」       |
| <input type="radio"/> 「人の考えを大切にしながら課題解決に取り組んでいる」 | <input type="radio"/> 「学級で話し合い互いのよさを生かしている」 |

一方、本校の回答で肯定的回答割合が国や県よりも**低い項目**は以下の通りです。

- |                         |              |
|-------------------------|--------------|
| ▼ 「あなたの家には、どれくらいの本があるか」 | ▼ 「新聞を読んでいる」 |
|-------------------------|--------------|

肯定的回答割合の高い項目を見ると、本校は**自己肯定感の高い生徒**が多いことや、**穏やかで温かな人間関係**が育まれていることなどが読み取れます。「**他者への気遣いと貢献のできる生徒**」という「目指す生徒像」の下で、仲間と協働で様々な活動に取り組む生徒たちの意識が反映されているのであれば、それは大変うれしいことです。

一方で、「読むこと」に関わる肯定的回答割合の相対的な低さは気になることです。

つい先日、文化庁が発表した「国語に関する世論調査」において、全国的に全世代で「読書離れ」が加速している現状が明らかとなりました。

スマホやタブレットの利用時間が増えたことで、読書したり新聞に目を通したりする機会が減っているからだと考えられます。生徒たちも例外ではありません。今の子供たちは「映像文化」で育ち、スマホ等での TikTok や YouTube の動画視聴が生活の一部となり、中には「動画漬け」となっている生徒も少なくありません。

動画やゲーム、SNS 等に多くの時間を費やすことで、視力のみならず、脳の機能の低下を指摘する医学者もいます。また、新聞の購読率が年々低下し、急速に「新聞離れ」が進んでいる現状もあります。

そうした「映像文化」“全盛”の今だからこそ、「活字文化」の意義をあらためて見つめ直し、新聞の報道記事や社説、コラム、さらには書物の評論や小説、随筆など、バラエティに富んだ文章に日常的に触れることが大切です。なぜなら、多様な文章に触れる中で、記者・筆者の伝えたいことや思いを汲み取ったり、登場人物の心情を理解しようと努めたりするプロセスにおいて、**相手の気持ちをおもんばかる想像力や表現力、他者への共感性**などが培われていくからです。

ある高校の図書館司書で社会教育士の方が、「映像文化」の中で育った子どもたちにとっては「読むことはスポーツと同じ。自然には身に付かない」「アクティブな活動で、習慣化するには練習が必要」と説いていらっしゃる記事を目にしました。

本校では読書の習慣化のねらいもあり、日々全校で朝読書に取り組んでいますが、それ以外に**1日20分程度は新聞などの多様な文章に触れ**、感性を磨くとともに他者の気持ちや相手の立場を想像できる思いやりの心を養ってほしいと思います。そうして「映像文化」に加えて「活字文化」を生活の中に定着させることは、ひいては生徒たちの読解力や記述力、表現力を高めていくことにもつながります。

“読書の秋” 真っ只中ですが、読書習慣がない子供にいきなり文学作品に挑ませるのはハードルが高いかもしれません。まずは短い文章で5W1Hが入り、起承転結がはっきりとしているなど、文章の基本がある新聞記事に目を通させてみてはいかがでしょうか。社会のできごとを自分ごととして捉える姿勢や思考力が身に付くと同時に、自分の知らない世界に気付き、生徒が自らの視野を広げることにもなるはずです。

